

# 大阪労連女性部ニュース NO. 3

憲法を生かして、ジェンダー平等を！

原発ゼロで安全な日本を！

2012年12月14日

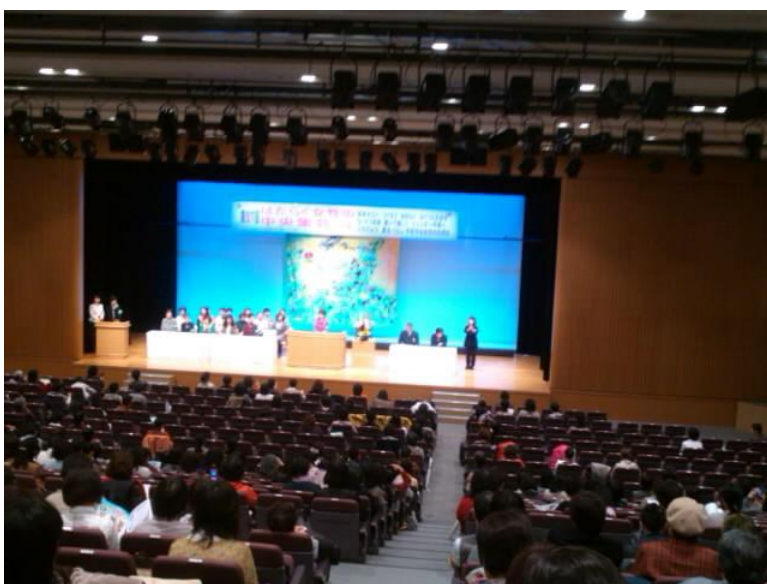
発行 〒530-0034 大阪市北区錦町2-2国労会館1F

## 第57回はたらく女性の中央集会 in 京都に参加！

第57回はたらく女性の中央集会に参加しました。1日目は、第2分科会「「まともに働きたい！いまこそはたらくルールの確立を」と題した中村和雄（弁護士・元京都市長選候補者）さんの分科会に参加しました。

まず中村さんから「派遣労働者のほとんどは女性であり、非正規問題は女性の問題である」。今の労働者の実態、特に非正規の女性の不安定、低賃金、無展望な実態。また日本型の男性を中心にした年功型賃金依存の結果、貧弱な社会保障や教育制度を続けてきたため母子世帯など貧困世帯

が苦しめられている状況、派遣法、有期労働契約改正の内容など学びました。特別報告では、国公労連・JAL・KBS放送労組からのたたかひの報告があり、参加者からの発言は、争議をしている仲間11名からの発言がありました。どの発言も職場の実態や会社、職場の理不尽な対応など思いを込めて訴えられており、今の日本の「当然な権利が保障されず、人間らしい働き方ができない」実態が伝わりました。悔しい、私にできることは何かと思い「非正規をなくす方法」という本を買いました。その後、全国一般交流会をし、その中で自分の出た分科会の感想を出し合ってお互いに学びあい得をした気分になりました。



2日目の全体集会では、安齋育郎さんから「放射能災害と私たちの生活」について理科、社会、公民という内容で学びました。この講義の中で2003年～2009年まで続いたイラク戦争の犠牲者は約9万人、日本の自殺者は約16万人と聞き、衝撃を受けました。

もうじき総選挙です。誰もが人間らしく生き、働き、幸せと感じられる真の平和な日本に変えるチャンスでもあります。ここで学んだことを少しでも周りに伝えたいと思います。

(全国一般女性部)

# 原発ゼロへ 憲法を生かした復興を 実現しよう すべての労働者の賃上げ 雇用確保 ひろげよう 女性の力 すすめよう 女性の参画

## 2013 年全労連女性部春闘討論集会開催

12月9日、都内・医療労働会館において、全労連女性部2013年春闘討論集会を開催し、春闘方針を議論、同日開催した第24回女性部委員会で、満場一致で春闘方針を採択しました。13単産31人、20地方22人、役員など含め69人が参加。22人が発言しました。部長挨拶のなかで「10月15日から厚生労働省労働政策審議会雇用均等分科会において、男女雇用均等法の見直しに向けた論議が始まりました。全労連女性部は、均等法の実効ある改正に向けて、2つの調査に取り組んできました。調査で明らかになったような女性が働き続ける上で障害になっていることを取り除いていくための法改正が強く求められています。

総選挙では、憲法9条が大きな争点となってきました。憲法9条をかえて国防軍を書き込む、集団的自衛権を認める、こうしたことが政党の公約に書かれています。こんな勢力の拡大を許してはなりません。一人ひとりが政治に参加していきましょう。」と挨拶されました。

大阪労連女性部からは伊東さん阿野さんの2名が参しました。

感想：選挙のために1日での開催となった春闘討論集会でしたが、議事進行がスムーズで、無駄がなく良かったと思います。大阪労連女性部として発言しました。当日にあれもこれも入れなくちゃと思っただけで余計なことを言って時間切れになってしまい、肝心の言わないと行けないことがいくつか抜けてしまいました。発言はやはり前もってきちんと準備しないと行けないことを身にしみて感じました。

橋下市長の悪政をもっと言えば良かったと後で後悔しています。発言内容は9月の大会後の活動報告、春闘のビクトリーマップ、橋下市長の悪政と裁判のこと、3月14日の菜の花行動のことなどです。他の方の発言は、地方色もいろいろあって勉強になりました。特に宮城の方の「被災地の取り組み、仕事がない、家がない、生活がなりたない中での苦悩」、福島の方の「除染がすすまないために精神的に追い込まれる人たち、子どもたちもまだ安心して外に出て遊べないこと、普通の業務に加えて被災者の見守りや、放射能検査などの震災後に増えた業務によって過労になっている」、沖縄の方の「オスプレイが22時以降も飛行し、住宅街の上空を低空で飛行している事実」、また神奈川の方の「派遣切りでまわりの人たちがもうあきらめてしまっている」などの発言が身につまされて切なく、そしてきちんと知らないといけなと感じました。本当の現場の方の声を知り、それを聞いた自分達も自分の声にして広げていかないと行けないと感じました。「その思いを今度の選挙に込めましょう」という終了のあいさつがこの時期に開催した意義として大切なまとめだったと思います。

(全印総連：阿野)

